

02

ニック・カーター

Nick CARTER

## Real Artists: Real Conversations?

### Background to the Real Artist Conversations

[(RAC)英語コース 共催実施の経緯]

ブリティッシュ・カウンシル(BC)は国際的な機会を設け英国と各国の人々の間に信頼関係を構築することをミッションの重要な一部として掲げています。その遂行のためにBCのアーティスト部門は不可欠であり、BC日本のアーティスト部門とセゾン文化財団との相互に有益な関係はもう何年も前から続いています。2011年には、アーティスト部門と同財団の担当者による協議の結果、セゾン文化財団支援のもと芸術界で活動するプロフェッショナルのための英語コースにBCが講師派遣することで合意しました。

### The First Year: 'Creative Entrepreneurship'

[共催1年目:創造的起業家精神]

最初の(共催)RACは2011年の夏に実施しました。約10週という期間、15名の参加者が週に一度2時間、東京の森下という地域にあるセゾン文化財団のスタジオ(森下スタジオ)に集まりました。このパターンは概ね毎年踏襲されてきましたが、実際の実施内容については開始した頃に比べて大きく変化しています。当時、'Creative entrepreneurship'は英語圏において、十分に浸透していた表現ではありましたが、もしかすると、初年度においては、Creativeという部分よりも entrepreneurshipに重きが置かれていたように思います。というのも背景には、BCの(英会話スクールを運営する)英語部門がビジネスパーソンに向けた、ビジネス英語コースを実施していた影響が考えられるからです。同時に、当然のことながら being positive, being diplomatic, giving opinions strongly or tentatively, as well as counter-arguing or conceding—ポジティブに、そつなく振る舞う、はっきりと或いは慎重に、また理由を明確に或いは譲歩しながら(相手と違う)意見を述べる、といった「会議室」で使えるスキルは、例えば「稽古場」に場所を移しても同じくらい有効に活用できるものです。

### Developing Aims

[成長目標]

私は2012年からコース構成と実際の指導を担当し始めました。普段の主な仕事はアカデミック・マネージャー(学校英語教育)ですが、BC東京では何年間か文学セミナーの担当をしていたり、映画ワークショップや文学をテーマとしたイベントを企画運営したりしてきました。

2012年以降継続してきたRACは、舞台芸術界で活躍するプロフェッショナルたちに、英語を話す海外アーティストやアーツマネージャーたちとやり取りをするきっかけに必要な言語スキルと異文化間能力を提供できるまでに成長しました。

参加者はこれまでの経歴、近年および現在進行中の仕事について、将来的な計画や大きな目標について話すための語彙とスキルを知り、練習をする機会を得ます。更にRACでは、受けた影響、作風や今後の展望について説明することにも重きを置いています。大切にしていることは、例えば見本市、フェスティバル、公演後の集まりといった場面において、海外のアーティストたち、またプロデューサーや関係者たちと今後の作業や仕事につなげていけるよう、英語を媒介として参加者がより上手に振る舞えるようにすることなのです。

### Participants' Language-learning Backgrounds

[参加者の言語習得背景]

コース参加者はほとんどが日本人で、大抵は英語の学習を中学や高校時代にしてきている方たちです。こういった学習環境において、多くの場合、英語はコミュニケーション(伝達)手段として扱われるよりも学問の一分野/科目としてとらえられます。従って、参加者はどこか消極的/受け身な雰囲気をまとってRAC初日に現れます。しかしながら、ここからが違います。彼らがアーティストをはじめ、舞台芸術界で活動するプロたちなので、多くの日本人受講生と比べても、積極的な参加をするまでにそう時間はかからないことは確かです。その意味で、教える側はとても幸運です。一番最初のクラス開始数分前、着席した参加者の静寂。そこから打って変わって、終了する頃には、生き生きとした姿に変化するコントラストがあります。様々な人に出会う場面を仮定したロールプレイでは、公演初日を終えた乾杯の席で参加者たちは互いに自己紹介をしながら、想像上のワイングラスを合わせていくのです。

### Course Methodology and Lesson Style

[コースの進め方]

Communicative Language Teaching methodology (《言語学》コミュニケーション・ランゲージ・ティーチング、略CLT)に従って進める点においては、RACも(BCでの)他の英語クラスにおいても大きな差はありません。RACでは、同じ人物がコース全体と個別セッションの調整役と実際のクラスを進めている点で、状況に応じた目標設定をしているので、基本的な構成はもちろんありますが、全て決めきったものを押し付けるということではありません。同時に参加者のニーズを分析することによって、つまり参加者たちは英語を使って何ができるようにすることが求められているか—その求められていることに向かえるように、実際のコースデザインは逆算してつくられていきます。

個々のセッションは、舞台芸術界にまつわるトピックや状況を想定していますので、コース前半、参加者はまずその事実を列挙する練習から始めます。自身の芸術活動に関わる経歴や現在の肩書や立場について説明し、これまで実施した公演や参加した事業についてより分かりやすく伝え、作品に関する考えや意見を述べる時のために、必



いずれもRAC英語ワークショップの様子

要になるであろうさまざまな語彙や構造についても学びます。続いて、自身のビジョンや方法論について話す「ことば」に焦点をあてます。これは参加者にとって時に困難な作業です。ここでいう「ことば」は、第一言語でさえ表現が容易ではないからです。我々講師は進行役として、模範例を提示したり、個別にアドバイスをしたりしますが、他の参加者たちから得ることもおおいにあります。中盤、英語圏で一般的に使用されているフォーマットにのっとったプロフィールを書く回がありますが、この作業は、それまでのおさらいのような役割をしています。

その後最終回まで数週間かけて、参加者には2つのことに集中してもらいます。①言語的にかつ、視覚的に自身と作品について伝えたり発表したりすること、そして②その発表をきっかけとして聞き手と関係構築できるように、或いは共同/協働作業につなげていく方法を考えます。そのために、話を組み立て聴衆に向けて準備された発表と、出会った人に短い時間で即興的に「自己アピール」をより良く行う方法を体験します。どちらの場合にも、講師はここでも模範例を示し、発表をする際参考となる型を練習する機会を設け、そして参加者にとっての“real-world”（現実世界）においてよりふさわしい言葉／表現の選択をお手伝いします。参加者によっては、型通りのプレゼンテーションに必要性を見出さない場合もあります。そういう方はこの練習の時間を、より个性的に使います。それは例えば、ほとんど音声としての言葉が用いられず、言ってみれば舞踏のような「発表」だったこともあります。

参加者の平均的な英語レベルは年によってさまざまで、さらに年毎のグループ内のレベルも幅広い時が往々にしてあります。講師には、参加者それぞれの言語的能力に応じた積極的参加と、持ちうる力を最大限発揮できるよう促しながら、異なる学習アプローチを丁寧にあてはめていく対応が求められます。

## The Participants

【参加者たち】

これまでRACを実施してきて、参加者は、演出家、プロデューサー、振付家、(劇)作家、ドラマツルク、俳優、コンテンポラリーから実験的そしてクラシックの経歴を持つダンサーやパフォーマー、商業演劇から日本固有のジャンル、例えば先ほど例として出た舞踏の分野で活躍する方々もいました。こういった参加者は、団体を主宰していたり、カンパニーに属していたり、また多くの場合フリーランスで活動されて



います。舞台芸術を仕事とした経験という意味でもいわゆる業界内で名の通った方から、活動を始めたばかりの方まで様々でした。そういった方々が参加する、この場の素晴らしい特徴の一つといえるのが、教室の中において、いわゆる先輩側のエゴ、そして若手側による過剰な敬意、そのどちらも存在しなかったことです。これはある程度は、参加者が第二言語を使った環境にいることに起因するかもしれませんが、参加している一人ひとりに設定した目標があり、それぞれが自身の課題に直面します。このことがもしかしたらヒエラルキーを気にしないことにつながっているのでしょうか。個々の葛藤は共通の目的になりうるからです。いずれにしても、どんな理由であれ、クラスが終了し生き生きと楽しんでいる雰囲気は、これまでのどの年においても共通して言えることです。

## The Future

【これから】

参加者のニーズや必要とされている環境によって変化し発展していくRACが、セゾン文化財団の理解ある協力関係により今後も継続していくことを願います。また、参加者の熱意と積極性に支えられているこのコースを、講師として担当できたことを光栄に思います。BCは mutually beneficial cross-cultural collaboration (相互に有益な異文化間協働) という理念に基づいて活動していますが、セゾン文化財団の Real Artist Conversations コースは、まさにこの理念を具現化している素晴らしい例だと私は感じています。

【翻訳：編集部】

### ニック・カーター (Nick Carter)

イングランドの北部リーズ (Leeds) 出身。イギリス高等教育における英文学、英語および演劇教師としてリーズ、マンチェスター、ロンドンで教鞭をとる。2012年よりブリティッシュ・カウンシル (日本) 学校英語教育アカデミック・マネージャー。

